

親子聖書日課

[日]安息日は主を礼拝する日ですから、仕事をしてはいけません。この戒めを曲解した律法学者は、主が病人を癒したことを非難しました。安息日の順守とは、安息日の主に従うことです。礼拝を第一とする時、実はよい仕事ができるのです。

[月]陶工は、思い通りのものができるまで、何度も壊しては作り直します。神も私達を最高の作品に仕上げるために、何度も砕いては作り直します。もう自分の力で自分を変える必要はありません。自分の身をただ主に任せればよいのです。

[火]壺は陶工の手にある時、壊れても修復は可能です。しかし、陶工の手を離れると硬くなって、修復は不可能です。ただ捨てるしかありません。同様に、御言葉に聴き従う人は、神によって造り変えられますから、頑固に拒む人は救われません。

[水]エレミヤは御言葉を語ったため、捕えられました。そのため、「主の名は口にすまい」と思いましたが、神の愛の火が心に燃え上がり、語らずにはいられませんでした。伝道は神の愛の迫りです。どんなに迫害されても、主を宣べ伝えましょう。

[木]信仰は頑張りではなく、主に委ねることです。「この都に留まる者」とは、自力で自分を守ろうとする者で滅びますが、「降伏する者」主に身を任せる者は救われます。死の道から命の道に行きたい人は、御言葉に聴き従い、主に委ねましょう。

[金]ヨヤキムは国家の危機などよそに、豪華な神殿を建てました。しかし、真の王とは、「貧しい人、乏しい人の訴えを裁く」ことです。彼は「不当な利益」を求めたため、惨めな最期を遂げます。「質素な生活をし、正義と恵みの業を行い」ましょう。

[土]ユダの牧者(王)は自分の利益を図り、自宅を建てるために民を虐待しました。主は自己中心な牧者を滅ぼし、民を養う牧者を起こされます。それは「正しい若枝」主イエスです。主をわが牧者として主に従うなら、恐れるものはありません。



NO.1905 2025.3/30-4/5 名前

	聖書	問題	答え
日	エレミヤ 17:14-27	安息日をどうすべきですか。	
月	18:1-23	陶工は一つの器を作っても気に入らなければどうしますか。	
火	19:1-15	陶工の作った物は、一度砕いたら、どうすることができませんか。	
水	20:1-18	主の言葉は、骨の中に閉じ込められて、火のようにはどうしましたか。	
木	21:1-14	どうする者は生き残り、命だけは助かりましたか。	
金	22:1-23	お前の若い時からの態度は、何と言っていましたか。	
土	22:24-23:8	彼らを牧する誰を主は立てられますか。	
		感想と祈りの課題	